

根、氣味甘平無毒。以鹽水食則不損口、同油煙。主治除煩悶熱渴開胃消食、解酒毒及蟹毒、散產後留血。此主心脾血分之疾、四時可食、令人心懽。

蓮實。即蓮肉也。氣味甘平、瀟無毒。李時珍曰、嫩蒨性平、石蓮性溫。主治發明、附方詳于綱目。花褪、蓮房成、蒨葯

在房、如蜂子在窠之狀。六七月采嫩者、生食脆美。至秋房枯、子黑、其堅如石、謂之石蓮子。斫去黑殼、謂之蓮肉也。

〔採藥錄〕蓮肉。ハスノミ

秋子ノ熟シタルヲ採リ、日乾スベシ。時過レバ自然ニ脱シテ不易得。藥肆ニ鬻グハ、皮ヲ去リ仁許也。皮ヲ去リ久ク貯ヘ、時ヲ過レバ、氣味大ニ劣レリ。其儘貯ヘ置キ、用時皮ヲ去リ、仁新シテ其功力尤勝レリ。

〔草木性譜〕天蓮

池沼に生ず、其藕泥中を横行す、其性大率歲間に遇ば、十三節毎に十二節を生ず、是一歳の月數に順リ、初舊藕の一節毎に兩芽を生ず、其一ハ晚春先づ錢荷を發し、一ハ藕芽を生ず、其藕芽の末に亦兩芽を生ず、其一ハ藕荷にして水面に浮き、一ハ嫩藕を生ず、其嫩藕の末に亦兩芽を生ず、其一ハ菱荷、一ハ藕、此の如く二三葉水を出れば節より小藕を生じ、藕荷菱荷を發す、亦藕末に三芽を生ず、其一ハ菱荷、一ハ齒莖、一ハ藕を生ず、後節より小藕を生ずること始の如く、一節毎に此のごとし、其節に鬚蕩を生ず、其藕細く泥の淺を横行し、秋に至り、花葉盡れば即太くして泥の深に入る。食用にする者は是なり、其葉陽に隨ふ、其藕茄中葉脈皆孔あり、絲あり、其花十六七瓣、薄紅色、縱文あり、陽に隨て旦に開き、暮に至り相合し、明旦復開き、二日にして即謝す。蓮蕊鬚黃色、甚だ清潔、芬香、旦に發し、午時に收る。蓮房初黃色、後綠色、熟すれば黑色、形蜂房に似たり。蓮實甚だ堅硬、秋に至り熟すれば、自づから飛ぶ、其殻頭の傍に必一點あり、其子生ハ初苞なく、先づ二葉生ず、即苦蕒實